



ヒーロー・ヒロインたちの 熱い想いに触れてみよう



しまばら芝桜公園

天草四郎は、島原の乱で戦った。誰もが知っているヒーロー。でも、有名じゃなくても有明・島原の風土から生まれたヒーロー、ヒロインは数多い。玉名市天水町の前田家の娘、前田卓(つな)は夏目漱石の小説『草枕』のモデルであり、後に孫文らを支援した民権運動家でもあった。卓の妹・槌(つち)も宮崎滔天と結婚し、辛亥革命に奔走する夫を支えた。前田家別邸として公開されている屋敷は、漱石を刺激した創作のゆりかごであり、ヒーロー・ヒロインの想いを育てたゆりかごでもある。もつと身近なところにもヒーロー・ヒロインはいる。島原の新名所・しまばら芝桜公園は、雲仙・普賢岳災害から元氣を取り戻そうと市民の募金、ボランティア活動で整備されたもの。何度も繰り返される災害を乗り越え、たくましく生きるみんながヒーロー、ヒロインだ。

激動の時代を切り拓こうとした人たち、独自の自然・風土の中でまちおこし、まちづくりに尽力している人たちが。規模はローカルかもしれないが、志はメジャーなヒーロー、ヒロインたちの想いの追体験へ誘うのがこの物語である。

夏目漱石、宮崎滔天、孫文。 前田家との 不思議な縁

草枕交流館

副館長

小山 芳弘さん
おやま よしひろ



ボランティアガイドの皆さん

草枕交流館は、玉名市天水町にある観光案内施設。夏目漱石の小説『草枕』の歴史資料に加え、前田家や辛亥革命との関わりをボランティアガイドが分かりやすく解説するほか、漱石が歩いた道を通るウォーキングなども行っている。

夏目漱石の『草枕』に登場する「那古井の宿」は、第1回衆議院議員を務めた前田案山子(まえだかかし)の別邸とされ、ヒロイン「那美」は次女の卓(つな)がモデルとされる。また、三女・槌(つち)は宮崎滔天と結婚し孫文らと交友。辛亥革命を物心両面で支援した。



『草枕』に「志保田の隠居」として出てくる前田案山子は、細川家の槍術指南役を務めた武芸の達人で、維新後は私塾を開いての人材育成や干拓農地の地租の低減に奮闘し、地域の人々から信望を集めました。また、早くから自由民権を主張し、中江兆民、岸田俊子ら

と交流しています」

「こうした環境で育った前田家の人々は、女性でも自由で進歩的な考えを持ち、前田家別邸は、名だたる政客や思想家、五高の教授といった知識人が集うサロンのような場所でした」

『草枕』の舞台として今も残る前田家別邸には、開明的な人々が暮らし、日本や東アジアを牽引した多くの客が集った。

「槌は、革命の夢を追って家庭を顧みない夫・滔天を理解し、支え続けました。東京に移り、民報社の設立後は姉の卓も呼んで、孫文、黄興ら中国の革命家達を支援し、多大な貢献を果たしました」

激動の時代を生き、歴史に名を残す

偉人たちが支えた前田家の人々は、この地が生んだ英雄だといえる。

■お問合せ

草枕交流館

TEL 0968-82-4511

玉名市



草枕交流館

小説『草枕』の歴史資料や小天周辺の観光情報を知ることができます。

〒 熊本県玉名市天水町小天735-1
☎ 0968-82-4511
📷 有 📺 有

戦いの裏でもう一つの ドラマが繰り広げられていました

明治10年(1877年)に起こった西南戦争で玉東町一帯は壮絶な戦場となり、官軍・薩軍ともに多くの死者を出した。この様子を耳にした元老院議員の佐野常民らは、パリ万博視察で知った赤十字のような救護組織を作る」と「博愛社」の設立へ動き、日本赤十字の誕生へと繋がった。



「西南戦争ではこの辺り一帯で激戦が繰り広げられました。当時から残る正念寺の山門には、激戦を物語る36発の銃弾の跡があります」

「官軍に田原坂が落とされ、薩軍が最後まで守った吉次峠が落ちるまで昼夜決戦が続き、負傷した官軍の兵隊はここに運んで治療をしました。医師も医薬品も不足した状況で、苦しさのあまり『助けて』という言葉より『殺してくれ』という言葉が多かったと伝わっています」



正念寺
隈部 廣宣さん
1947年 2006年

400年以上の歴史がある正念寺の前住職。西南戦争時は祖父が住職の頃で、現在は16代目の息子が住職を務めている。自身は第一線を退き、西南戦争に関する資料を集めたり勉強しながら、次の世代へと地域の歴史を伝えている。

戦場となった玉東町一帯の人は、死者の搬送や看護などにかかり出された。

「医師不足のなか地元の医師も治療を行い、現在も近くに安成医院のご先祖様で安成宗寿という人がここで治療に当たりました。他の民家では薩軍の兵を匿ったり、亡くなった人のお墓を立てて弔ったりもしました」

「悲惨な状況は東京へ逐一伝えられ、それを聞いた佐野常民と大給恒の2人が協力を呼びかけて『博愛社』の設立へと動き始めました」

人々は戦禍にあいながらも官軍・薩軍分け隔てなく救護を行い、その行動が日本の赤十字誕生へと繋がる。歴史の表舞台には出てこないこの市井の人こそ、まさにヒーロー・ヒロインと言えるだろう。

■お問合せ
正念寺
TEL 0968-851-2251

災害を乗り越え、 みんなでつくった新名所です

平成3年(1991年)の雲仙・普賢岳の噴火により大きな被害を受けた島原市。現在、しまばら芝桜公園になっている場所も、普賢岳の火砕流が襲った地区だった。その後、復興が進む中で土石流を防ぐダムが造られ、跡地には市民有志の力によりしまばら芝桜公園が整備された。



「しまばら芝桜公園は、火砕流の発生ですぐそばまで熱風が来て、辺りには民家があったんですが、みんな焼けてしまったんです。公園の下の方には島原市の中心部があり、上の方には普賢岳があるので、国が買い上げてダムが造られました」

「しまばら芝桜公園の地域は警戒区域でしたが、平成7年(1995年)頃から入れるようになりました。それで、荒れ放題だったのでどうにかしようと、前理事長の足立さんがこの場所の景観を活かしたしまばら芝桜公園



NPO法人しまばら芝桜公園をつくる会
理事長 松本良一さん
まもと りょういち

噴火がある前は芝桜公園の近くに家や牛舎があり、小さい頃から近所で遊んでいた松本さん。荒れ地を牧草地にできないか県へ相談に行った時、担当者から芝桜公園のボランティアを紹介され、自分に何かできることはと思いすぐに参加を決めた。

を造る提案をされ、ボランティア団体が立ち上がったんです」

その後、ボランティアを募り地元の人や企業、行政の協力を受けながら公園整備が進められた。

「芝桜は苗代がかかるんですよ。それで最初10アールくらいやってみようとということになり、寄付を募りながら、約8万5千株植えました。ボランティアや協賛企業などの協力もあって徐々に広がり、今では27万株くらいの規模になりました。今後は、市の活性化につながるような公園にしていきたいです」

現在、春に開催されるしまばら芝桜まつりには約35000人が訪れ、秋にはコスモスマつりも行われている。地域の人たちの強い意志が新たな観光名所を創り出したのだ。

■お問合せ
NPO法人 芝桜公園をつくる会
TEL 0957-621-3088
(島原温泉観光協会)

島原市

しまばら芝桜公園
春は一面に広がる芝桜、秋にはコスモスを楽しむことができる。
☎ 長崎県島原市上折橋町1465-2
☎ 0957-62-3986
☑ 有 ☑ 有

荒尾市

宮崎兄弟資料館
前田家の娘が嫁いだ宮崎滔天ら宮崎兄弟の資料館がある。
☎ 熊本県荒尾市荒尾949-1
☎ 0968-63-2595
☑ 有 ☑ 有

玉東町

正念寺
日本赤十字社発祥の地といわれ門には西南戦争の銃痕が今も残る。
☎ 熊本県玉名郡玉東町木葉750
☎ 0968-85-2251
☑ 有 ☑ 有

玉東町

吉次峠
西南戦争では田原坂同様、激戦が繰り広げられた場所。
☎ 熊本県玉名郡玉東町原倉
☎ 0968-85-3111(玉東町役場)
☑ 無 ☑ 有

玉名市

前田家別邸
夏目漱石の「草枕」に登場する宿のモデルとなった建物を修復・保存。
☎ 熊本県玉名市天水町小天735-1
☎ 0968-82-4511(草枕交流館)
☑ 有(草枕交流館) ☑ 有(草枕交流館)



時を重ねて光かがやく 暮らしから生まれた遺産たち

湧水庭園 四明荘

有明・島原地域には2つの世界遺産候補の資源があるが、世界に誇るこれらの資源以外にも、暮らしの中で作られ、使われてきたもので、時を重ねて輝きを見せるものがある。例えば、島原市内の湧水庭園「四明荘」や「しまばら水屋敷」は、元は個人の邸宅だった場所。湧水を暮らしの中に取り入れたこの地ならではの造りが、いまや「暮らし遺産」として輝きを放つ。南島原を中心に江戸時代から作られている島原手延そうめんは、島原の乱の後、この地に移住してきた小豆島出身者が伝えたもの。また島原の乱の籠城に備えたのが起源とも言われる「具雑煮」などもふるさととの味として今も愛され続けている「暮らし遺産」だ。南関町の南関あげも、明治初期から作られ、今や郷土を代表する味に。長洲町の金魚と鯉の養殖は、江戸時代から続く地場産業だが、今や地域のシンボルとして人々の支えとなっている。

有明・島原の風土の中で、人の営みが産み出したもの、あるいは人の営みそのもの。「まちかどの暮らし遺産」は地域の中にたくさん存在している。

湧水を守り、暮らしに活かす 島原の美しき象徴です

湧水庭園 四明荘
案内人 慶田 久美子さん
けいた くみこ



四明荘や島原市の魅力を伝える笑顔と和服姿が素敵な慶田さん。「四季折々の異なる景色を楽しめますので、ぜひお出で下さい。色んな魅力をお伝えして、お客さんがまた楽しんで来て下さるのが嬉しいです！」

古くから水の都と呼ばれ、市内に約60箇所の湧水ポイントがある島原市。暮らしのなかで湧水を上手に利用し、水路のある美しいまち並みを大切にしてきた。現在、文化的価値が高く国の登録有形文化財になっている「湧水庭園 四明荘」などが一般開放されている。



「四明荘は明治後期に建てられ、池に湧く水も名水百選に選ばれた島原の湧水なんです。水温は1年を通じて14〜15度と一定で、1日10000トン以上湧き出しています。」

「島原湧水の歴史は古く、寛政4年（1792年）の普賢岳噴火に伴う大地震が、この地に湧水をもたらしました。普賢岳は時に災害をもたらしますが、湧水など素晴らしい恩恵も与えてくれました。」

人々は生活用水として大切に利用し、暮らしを豊かに彩った。

「島原の人はこの湧水を生活の中で大事に使ってきました。武家屋敷の水路や共同洗い場の『浜の川湧水』、また昭和53年（1978年）から水路に鯉を放流し、今では『鯉の泳ぐまち』として知られるようになりました。毎年8月

はじめに、湧水に感謝する『水まつり』が行われ、四明荘もライトアップされて綺麗ですよ。そういうことが出来るのも、素晴らしい湧水が残されているからこそなんです。」

人々の心を惹きつける美しい庭園や風情あるまち並みは、地域住民の人々が美しい水や水路を守ってきたからこそ残されている。

■お問合せ

湧水庭園 四明荘

TEL 0957-63-1121

金魚は、長洲の人々が育んだ大切な宝もの



巨大な造船所の近くにある中島さんの養魚場。12月に訪れた時は、桶へ金魚を移し出荷準備の真っ最中。「この金魚は、生育すると30cmにもなります。金魚の寿命は約30年で、鯉は100年も生きるんですよ。」

九州一の生産量を誇る長洲町の金魚。養殖の始まりは江戸時代とされ、明治の頃にはすでに盛んに生産されていた伝統産業である。現在、金魚と鯉を合わせて12軒の養魚場が長洲町養魚組合に所属し、金魚すくい用や観賞用に全国に販売している。

長洲町養魚組合
顧問 中島 秀雄さん
なかしま ひでお



父親の代から金魚の養殖を始め、自身もこの道70年。89歳になった現在も5種類の金魚を育てている。「金魚を育てるコツは、酸素をたくさんやること。餌をやる時口を開けながら寄ってきて可愛かですよ！」

「金魚の色は、水が綺麗すぎると鮮やかにならん、長洲の水は金魚を育てるのにちょうどいい」
「長洲での金魚養殖の始まりは360年前の江戸時代。長洲の人が、オランダ船が中国から持ち込んだ金魚を長崎の問屋で見つけて持って帰ったことがはじまりと言われています。金魚を分けてもらった地元の人が養殖を成功させて、行商人たちと売ってまわって長洲の金魚が有名になったそうです」
まさに金魚は、長洲の土地と人々が育んだ歴史的な財産といえる。
「最盛期に比べると金魚養殖家も減ったけど、ふるさとの宝物なので、しっかりと守っていきたいです」
現在、中島さんは町の小学校で組合の仲間達と一緒に、金魚すくいや金魚の歴史を話す活動を行い、次の世代へと伝統を伝えていく。

■お問合せ
中島養魚場
TEL 0968-78-0718

優しい美味しさ、南関の心の味です

「南関あげ」は熊本県南関町に昔から伝わるあげ豆腐で、地元の家庭で親しまれてきた伝統食品。水分を抜いて揚げることで日持ちがし、味や香りが長く保つのが特徴だ。一般的なあげ豆腐より水分がしみこみ、ふっくらジューシーな食感が人気で近年は県外にも広がっている。

「南関あげの歴史は文献など無く定かではないのですが、明治時代に四国から来た人が托鉢をしていて、一宿一飯のお礼として岡田商店さんに製造方法を教えたと言われています。南関あげは長期保存ができるので、冷蔵庫がない当時は重宝されたんじゃないでしょうか」

南関あげは地元の豆腐屋などで売られ、地域の家庭の味として根付いた。「南関あげは、まず豆腐を作って薄く切り、水分を抜いて、低温と高温の油で揚げ作りします。昔から味噌汁の具として人気で、もちりの食感と自然な甘みが楽しめますよ」

「南関名物になった揚げ巻き寿司は、郷土料理研究家の松永喜美子先生が、最初南関あげで芋がらなどを巻いた料理を作られ、その後、南関町の生活改善グループの方が、巻き寿司の海苔の代わりに使うことを思いついて生まれました。調理される方や販売してくださる方の力があつたからこそここまで広がりました」

地域の身近な食品であった南関あげは、今や県内はもちろん、県外にも愛用者が広がっている。その陰には、製造する人や調理する人の熱い想いと努力があつた。

■お問合せ
塩山食品株式会社
TEL 0968-53-0154

塩山食品株式会社
代表取締役 塩山 治男さん
しおやま はるお



長年地元で卓球の指導をしていた塩山さん。「父親から会社を引き継いだ当初は、揚げ豆腐や辛子蓮根などを製造していました。家族や友人、取引先など周りの人に助けられて今日があります」

南関町

なんかん いきいき村
南関あげ、南関そうめんなど特産品を味わうことのできるスポット。
☎ 熊本県玉名郡南関町関町419-1
☎ 0968-53-0388
☑ 有 ☑ 有

長洲町

金魚と鯉の郷広場 (金魚の館)
約40cmのジャンボシガシラなど町内産の金魚を大型水槽で展示。
☎ 熊本県玉名郡長洲町大字長洲3150
☎ 0968-78-3866 ☑ 有 ☑ 有

島原市

鯉の泳ぐまち (しまばら湧水館)
島原を代表する湧水スポット。色鮮やかな錦鯉の姿が楽しめます。
☎ 長崎県島原市新町二丁目
☎ 0957-63-1111 (島原市しまばら観光おもてなし課) ☑ 無 ☑ 無

島原市

湧水庭園「四明荘」
豊かな湧水を利用、水屋敷として親しまれてきた近代の住宅庭園。
☎ 長崎県島原市新町2-125
☎ 0957-63-1121
☑ 無 ☑ 有

雲仙市

銅島邸
国重要文化財の銅島邸を中心とした神代小路(こうじろこうじ)地区は、国重要伝統的建造物群保存地区。
☎ 長崎県雲仙市国見町神代
☎ 0957-61-7778
☑ 有 ☑ 有



地球に生きていること、 地球に生かされていることを 実感しよう



旧大野木場小学校被災校舎

島原半島を作り出した最初の地球の活動は、約4300万年前の海底火山の噴火である。火山は何度も噴火を繰り返しており、江戸時代には噴火が二度。近年では平成2年(1990年)から5年間続いた雲仙・普賢岳の噴火が記憶に新しい。日本初の「世界ジオパーク」に認定された島原半島のテーマは、「火山と人との共生」である。火山灰のミネラルを豊富に含んだ土地と、伏流水で作られる美味しい野菜を食べること、温泉で寛ぐことも火山や地球との対話・共生。島原半島では、五感で火山、地球を感じることもできるのだ。

一方、大牟田・荒尾の地底深くに眠る石炭も地球活動との関係が深いもの。石炭は古代の植物が地中に埋もれ長い期間地熱や地圧を受けて変化した化石で、国内の石炭は今から約4000万年前メタセコイアという植物がもとになっていると考えられている。そしていま、有明・島原地域では、環境保全、再生可能エネルギーの推進という新たな視点、形での地球との対話も始まっている。

有明・島原では、火山そして石炭という地球の活動をすぐ近くで体感し、そして未来に向けて始まった地球との共存共栄の道筋を確かめることができるのだ。

火山と共存共栄している 島原半島の すべてが ジオなのです

島原半島ジオパーク協議会
事務局長 大野 希一さん
おのの まれかず



平成20年(2008年)にジオパーク協議会ができる前は、東京で火山の研究をしていた大野さん。仕事で各地のジオパークに行くことも多い。「違う土地に行ったら、その場所の食や風習に自然環境や気候などが与えた影響を知りたくなります！」

豊かな自然環境に囲まれた島原半島は、日本で最初に世界ジオパークに認定された。温泉や湧水、食べ物など自然の恩恵が人々の暮らしを支え、ときには火山や地震など地球活動がもたらす災害を乗り越えながら独自の文化を育んできた。

「簡単に言うとジオパークは、地球活動と人との関わりを楽しむ場所ということ。島原半島は古くから人が住み、自然を利用して暮らししてきました。そして、独自の生活スタイルや文化が育まれました」

「例えば、島原半島には真ん中に雲仙があり、島原市は有明海の方に向いているので生活文化圏が長崎より熊本寄り。一方、雲仙を越えた小浜や愛野側は長崎寄りなど、山や断層があることで文化などが変わってきます。昔は人の行き来が難しく、また技術も限られていたので、食や産業もその土地にあるものを活用しました。そのため、加工品や食文化が地域の伝統工芸や特産品になっていったのです」

島原独特の自然環境が人々の生活に影響し独自の文化を生みだした。現在、そんな島原半島の魅力を楽しめるモデルコースが整備されている。

「火山や噴火をたどるコースや熊本とも関係の深い、島原大変肥後迷惑のコース、島原半島の成り立ちが分かるコースなどがあります。島原半島観光連盟にはジオガイドさんもいますので、実際に来てガイドと一緒に巡ってほしいです」

地球の成り立ちという視点から島原を見ることで、その魅力をより深く知ることができた。

■お問合せ

島原半島ジオパーク協議会

TEL 0957-65-5540

(雲仙岳災害記念館内)



石炭の原木と言われるメタセコイア。絶滅したと思われていたが挿し木で増やされ、昭和32年に大牟田で開催された産業科学博覧会会場「延命公園」に植樹された。

地球の恵み、 石炭が残したものを みなさんに 知ってもらいたい

万田坑ファン倶楽部
会長 瀬戸 洋さん

日本が近代化への道を歩き始めた明治時代、最新の技術と機械を導入し、良質な石炭を産出した万田坑。荒尾・大牟田に散在する歴史的な産業遺産群は、労働者の魂や当時の繁栄を伝え、日本の遺産から人類の遺産へと歩もうとしている。

「三池炭鉱で採れる石炭は瀝青灰れきせいたん」に分類され、植物が約4000万年かけて石炭になったものです。石炭層は大牟田・荒尾から斜めに有

明海の下へと伸びています」

「万田坑は明治35年（1902年）に第一堅坑槽ができ、最新の技術や機械が導入され東洋一の炭鉱と言われました。与謝野鉄幹たちの九州紀行『五足の靴』にも出てきます。現在保存されているレンガ造りの建物は、明治41年（1908年）にできた第二堅坑槽で、人員の昇降と排気が目的でした」

平成9年（1997年）の閉山後炭鉱の記憶をとどめる万田坑は荒尾市により保存された。現在、日本の礎を築いた『明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域』の一つとして、ユネスコ



定年退職後に閉山した炭鉱の保存ボランティアに参加していた瀬戸さん。その後、職場の元同僚から誘われてファンクラブに。現在、14名の会員が交替でガイドを務め、毎日多くの人が訪れる万田坑の歴史や炭鉱文化を発信している。

世界文化遺産への登録を目指している。また、炭鉱の記憶は暮らしの中にも息づいている。

「荒尾市民に親しまれているメロンパンなどの甘くて腹持ちが良いものを炭鉱マンは好みました。坑内はタバコがダメで口寂しいので飴玉も良く食べました」

大牟田・荒尾の発展の原動力となった石炭と炭鉱。人々は恵みを受け、独自の文化を育んだのだ。

■お問合せ
万田坑ステーション
TEL 0968-57-9155

南島原市



旧大野木場小学校被災校舎

平成3年の火砕流で全壊した旧大野木場小学校の校舎を保存。

☎ 長崎県南島原市深江町戊2100-1
☎ 0957-72-2499
☎ 有 ☎ 有

荒尾市



万田坑ステーション

復元模型、写真などで、万田坑に関する情報を展示。

☎ 熊本県荒尾市原万田200番地2
☎ 0968-57-9155
☎ 有 ☎ 有

雲仙市



雲仙地獄

高温の噴気や熱水が噴出している個所を間近に見ることが出来る。

☎ 長崎県雲仙市小浜町雲仙
☎ 0957-73-3434(雲仙温泉観光教会)
☎ 有 ☎ 有

島原市



がまだすドーム

(雲仙岳災害記念館)
島原半島世界ジオパークについての様々な情報を入手できる拠点。

☎ 長崎県島原市平成町1-1
☎ 0957-65-5555
☎ 有 ☎ 有

南島原市



両子岩 (ふたごいわ)

150万年前の土石流堆積物が、波の浸食で人の頭のような形に。

☎ 長崎県南島原市加津佐町
☎ 050-3381-5032(南島原市商工観光課) ☎ 有 ☎ 無

南島原市



土石流被災家屋保存公園

大規模な土石流で埋没した家屋の一部を移設し保存・展示。

☎ 長崎県南島原市深江町丁6077
(道の駅みずなし本陣内)
☎ 0957-72-7222 ☎ 有 ☎ 有